

46 銀左(斜め棒銀)定跡 <先手四間飛車>

(第1回は▲7八飛まで)

▲7六
▲6六
▲6八
▲7八
▲4八
▲3七八
▲7八八
▲2八八
▲3八八
▲5六七
▲1六八
▲6七六
▲5八八
▲9八八
▲7八八

中華書局影印
中華書局影印

△7六步
△7二飛
△7七角成

卷之三

(第2図は▲同 飛まで)

成歩(3回)
成事(8回)
成歩(3回)
成事(7回)
成歩(4回)
成事(6回)
成歩(5回)
成事(6回)
成歩(4回)
成事(5回)

卷之九

(第3図は▲6三歩成まで)

- ① 山田定跡
- ② 鶩/宮定跡
- ③ 棒銀
- ④ 46 銀左(斜め棒銀)
- ⑤ 45 歩早仕掛け

第1図が④の斜め棒銀になります。斜め棒銀も四間飛車が 67 銀と上がらないと上がりづらいため、基本的には先手四間飛車の時が多いです。

斜め棒銀の場合は、四間飛車は 98 香、47 歩で 75 歩に 78 飛と受けるようにします。早仕掛け以外は 47 歩型がいいです。

棒銀、斜め棒銀のように 4 段目まで銀が出てきている時は 75 歩は四間飛車からは取いません。

第2図で居飛車は 53 銀と 22 角があります。

53 銀は 67 銀と飛車交換して、66 角が攻防になり美濃囲いも堅いため四間飛車側も戦えます。そのため、22 角と飛車を狙ってきます。

67 金～66 角～83 角と角の斜めのラインで厚みを作りながら 69 飛には 58 銀としっかり受けていきます。

この時 98 香型だと 99 飛成と一発で香と取られないです。

第3図で何で取っても 64 歩と打ち、馬と角を使って攻めていき、居飛車側は香を取って自陣の飛車を活用しながら 2 枚飛車で攻めていけるような形を目指していきます。

実はこれ四間飛車優勢の変化で、本当は 32 手目で 86 歩、同步を入れてから 72 飛と寄り、86 飛といけるようにすると互角になりますが変化が難しいので今回は斜め棒銀の基本的な定跡について知ってほしかったので省きます。